

2020年5月3日（日）復活節第4主日

銀座教会 主日家庭礼拝

礼拝招詞 「わたしは知っている
わたしを贖う方は生きておられ
ついには塵の上に立たれるであろう。」ヨブ記19：25

主の祈り

天にまします我らの父よ、願わくはみ名を崇めさせたまえ。
み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を今日も与えたまえ。
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。
我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄とは限りなく汝のものなればなり。 アーメン

讚美歌 11 あめつちにまさる かみの御名を

聖書 使徒言行録4章32～37節

32 信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。33 使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、皆、人々から非常に好意を持たれていた。34 信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。土地や家を持っている人が皆、それを売っては代金を持ち寄り、35 使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じて、おのおのに分配されたからである。36 たとえば、レビ族の人で、使徒たちからバルナバー——「慰めの子」という意味——と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、37 持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。

牧会祈禱

天の父なる神さま。復活の主と共に歩み出し、わたしたちは5月と共に、復活節第四週を迎えました。家庭礼拝を続けながら、一日も早く、共に集まる礼拝を待ち望みつつ祈りをささげています。最初のイースター後、復活の主イエスと出会ったという言葉聞きながらも、心を開くことが出来ず、部屋に閉じこもっていたトマスにお姿を現してくださったように、私たちとともに歩んでくださる復活の主に感謝いたします。多くの教会が離ればなれに礼拝をささげています。復活の主を信じる信仰によって一つであることを覚えさせてください。息苦しい日々の中、私たちの心を支えて下さい。私たちに親切な心をお与えください。柔和と耐え忍ぶ心をお与えください。復活の主と共に歩んでいる平安をお与えください。苦しみに耐える心をお与えください。与えられたつとめに対する勤勉さをお与えください。

共に恵みの座にひざまずき、主の食卓に与る日をお与えください。病の中にある者に癒

やしの御手を、悲しみ悩む者に慰めをお与えください。子どもたちのために祈ります。教会学校の礼拝が再開できる日まで、一人一人が神さまを見上げて祈る者としてくださいますようにお祈りいたします。

新型コロナウイルスと戦う最前線におられる医療従事者のために感染者とそのご家族のために主の助けと癒やしをお与えください。

この祈り、主イエス・キリストの御名を通してお祈りいたします。アーメン

説教 「復活の証人として生きる」

高橋 潤

教会とは何でしょうか。本日の御言葉で答えるとするなら、教会とは「信じた人々の群れ」であり、「心と思いを一つにしている群れ」です。

主イエスの十字架によって、特に弟子たちは自分の弱さ惨めさに打ちひしがれていました。しかし、思いもかけない復活の主との出会いが与えられました。キリストの教会は、復活の主との出会いが決定的な経験になり命を与えられました。「信じた人々」が「群れ」として共に生きているのは、弟子たちの誰かの発案や計画ではなく、復活の主が私たちと共に生きておられる、この決定的な経験が「信じた人々の群れ」となり、教会を形成する出発点となりました。主イエスの復活を信じる信仰によって、私たちは復活の主とつながっているのです。これが教会の命を表す姿です。聖書の御言葉は、このつながりを「信じた人々の群れ」は、「心も思いも一つにし」ていたと表現しています。使徒言行録の2章44節以下によると、毎日ひたすら心一つにしていたと記されています。

私たちが今、共に集うことが出来ませんが主イエスの復活を信じる信仰によって一つにされているのです。礼拝においても日常生活の中においても、復活の主に見つめられています。復活の主の声を聞いて生かされているのです。「心も思いも一つ」とは、信仰によって一つにされているということです。私たちが、信仰以外の何かで一つになっても、それは「信じた人々の群れ」とはいえません。しかし、たとえ、数名であっても、主イエスを救い主と信じる信仰によって一つであるならば「信じた人々の群れ」に相応しい教会といえましょう。教会は、私たちの思想や誰かの思いで一つになるということではなく、復活の主と共に生きておられるという、初代教会に与えられた決定的な信仰の継承によって一つにされるのです。

使徒言行録には、最初の教会の人々の生活が生き生きと記されています。たとえば、2章の44節以下には、毎日ひたすら心一つにして神殿に出かけたことや、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をしていた様子が記されています。神殿での祈りやパン裂き、喜びの食卓によって、心も思いも一つとなったのです。さらに、復活を信じる群れの大きな特徴があります。それは、使徒たちが復活の主の証人として、主イエスこそ私たちの救い主であることを伝えているということです。「信じた人々の群れ」は、復活のキリストを伝えました。使徒言行録2章32節には、「神はこのイエスを復活

させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です」と記されています。「信じた人々の群れ」は、主イエスの復活の証人であるとの自覚が与えられました。これは、誰かに頼まれたものではありません。復活の主に出会った人々は、復活の主を証しする証人になっているのです。証人は、誰の前でも忖度することなく、キリストの復活を証しするのです。

銀座教会が証しを大切にしていることの原点がここにあると言って良いでしょう。「わたしたちは皆、そのことの証人です」という声です。復活信仰を与えられた喜びの声が、教会であり、「信じた人々の群れ」なのです。

「信じた人々の群れ」は、主イエスの復活によって心と思いを一つにされ、復活の証人として生かされていました。この群れは、誰の前に立ってもキリストの証人として生きて行くとき、2章のペトロの説教に記されているように、ナザレのイエスこそ、神から遣わされた方であることを大胆に語るのです。

教会の原点は、主イエスの復活をその証人として喜びをもって語る姿の中にあります。礼拝において、説教が語られるのも、復活の証人としてです。証人として生きるということは、主の復活を語らないではいられない群れのなかで生きるということです。2章14節でペトロが11人の弟子たちと共に立って「わたしの言葉に耳を傾けてください」と話し始めているように、主イエスの復活の証人は「共に立つ」のです。彼らは「知っていただきたいことがあります」と言って語り始めました。知って欲しいという思いに押し出されています。これが、「信じた人々の群れ」の姿です。

最初の教会であるペトロとヨハネは、「美しい門」で生まれながら足の不自由な男と出会い、「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」と語りました。ペトロとヨハネがこの男にこの言葉を語る事が出来たのは、はったりでも空元気でもなく、復活の主を証しするためです。生まれながら足の不自由な男こそ、復活の主によって神を賛美する者へ変えられました。目撃者になりました。復活の証人となったのです。

このように復活の主の力を大胆に語ったために、4章の前半でペトロとヨハネは捕らえられ翌日まで牢獄に入れられてしまいました。しかし、このような逮捕される力をもつともせず、彼らの証しは、益々力をもって広がっていきました。彼らの復活の主を信じる信仰による証しは、ペトロたちの逮捕によって、しぼんでしまったものではありません。そうではなく彼らは、逆境の中で益々、力を与えられていったのです。その力は、4章23節以下に記されている祈りによって確認することが出来ます。迫害が祈りの力になりました。逆境の中で、ますます熱心な祈りが与えられました。

私たちが今、主日礼拝に集まることの出来ない逆境の中に置かれながら、ますます熱い祈りが与えられています。

33節には「使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、皆、人々から非常に好意を持たれていた。」とあります。「人々から非常に好意を持たれていた。」という言葉は、口語訳聖書では「大きな恵みが彼ら一同に注がれた」と訳されています。こちらの方が原典をよく表現しています。復活の主を指し示すとき、大きな恵みが注がれるのです。それが教会です。神の恵みは大きいのです。そして豊かに注がれるのです。

「信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。土地や家を持っている人が皆、それを売っては代金を持ち寄り、35使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じて、おののおに分配されたからである。」

復活の主によって結ばれた教会は、与えられた神の恵みを分かち合う力に生きていました。お互いの祈りが助け合う力に変えられて歩み出しました。小さな群れでありましたがすべてを信頼し、すべてを神さまに委ねて歩み出しました。私たちの状況がどのように変化しようとも、主の恵みは絶えず注がれていることを忘れることなく、新しい一週間を歩みましょう。

《祈 禱》天の父なる神さま。復活の主によって新しい力に生かされている教会の原点に立ち帰り、御言葉を与えられました。私たちが主イエスの復活を信じる信仰により、十分な恵みを受けていることを感謝いたします。復活の主を仰ぎつつ主の証人として祈る私たちの一週間をお導きください。

主イエスの御名によって祈ります。 アーメン

祈 禱（各自、自由にお祈りください）

祈禱課題 東京神学大学の教職員、神学生のために
病の中で苦しむ方々、医療従事者のために
全国の教会が主イエスの復活信仰によって祈りを結集するように

讃美歌 494 わが行くみち いついかに

献 金

頌 栄 544

祝 禱 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。
主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。
主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
あなたがた一同と共にあるように。 アーメン